

今年の田んぼ 飯村（子の神田んぼ）

去年に続き、今年も田んぼに取り組んでいます。飯村です。去年とは違い畔を一から作る必要が無く、少しは余裕があるかと思いきや、雨や体調不良に見舞われてしまい、田植えの一週間前から1日8時間近く作業をして、風邪を引きながらもなんとか強引に間に合わせました。しかし、田植え当日には天気に恵まれ、手伝いに来てくれた方も多く田植えはさくさくと終わることが出来ました。とても助かり、やはり人数は大事だと再認識しました。田植え後には手伝いに来ていただいた方たちとの交流会なども行い、とても楽しく賑やかな日となりました。僕や井関さんはぐったりしていましたが…（笑）

今は収穫に向けて作業をやりつつ、のんびりと田んぼを眺めたりしています。水の入った田んぼは綺麗で、癒されています。次に人を呼ぶのは収穫の時になるので、それまで田んぼ周りの草刈やゴミ拾いなど、人目についても恥ずかしくないよう努めたいと思います。あとは、もう少し計画的にやりたいなど。ぎりぎり間に合わせるのは肉体的にも精神的にもとても辛いものがあるので…。その為にも、なにをいつまでにやるべきなのかを把握して、組み立てながら取り組めるようにしたいと思います。今年もたくさん収穫できることを楽しみに、頑張っていきます！

めだか田んぼ 黒澤 太より

めだか田んぼは、酒匂川左岸の南北2キロ、東西4百メートルの中の、絶滅危惧種のめだか生息地、鬼柳にあります。開発計画の一般保留地に指定されていた為に、逆に人間の家や道路になることなく、湧水や水路が多くある土地で、農薬使用量が少なかったこともあり、昔からこの地に住む在来種のめだか、貝、水草などが、生き残って来られたようです。しかし、最近、小田原大井線の新しい道路ができた為に、工業団地や宅地への開発が迫りつつある場所になって来ています。（詳しくは、山田純さんの桑原めだか米の資料を読んで見てください。『桑原めだか米の会』を検索！）

私は、この桑原、鬼柳で、1昨年に山ちゃん田んぼで田植え体験後、お米と味噌だけでも自給できたらどんなにか幸せだろうと、去年は大豆の会と山田純さんの田んぼの手伝い、今年からは、めだか田んぼを中村隆一さんとやることになりました。この場所で農作業をしていると、富士山も見え、小川が流れ、水鳥の休む田んぼが広がり、心を落ち着かせてくれます。この風景は、ただ偶然に残ったのではなく、昔からこの地で田んぼを維持、管理してきた農家の方々の御蔭で残ってきました。私たちは、戦後から今まで、空いた便利な土地があれば、（幸せになる為に？）とにかく効率よくお金になることだけを考えて、風景を変えてしまったのではないのでしょうか？ 当然、都心では、こんな風景は見られません。そして、その都会で私たちは、精神的に本当に幸せに暮らしているのでしょうか？ 私は、会社から見える東京スカイツリーの風景よりも、小田原の富士山に見える田んぼの広がる風景の方が心落ち着いて大好きです。しかし、農に関わる人

子ノ神 下の田んぼの岡本家

お父さん、田んぼスカスカだね。

いや、見ていてごらん、きっと、今に周りの田んぼに見劣りしないくらいリップになるから。

何の根拠もない予言であるけれど、父はそう思っている。今年は肥料も入れていないし、二枚目の田んぼは水がなかなか溜まらない。陸の草まで生えてきて、何やら田んぼらしからぬ様相になってきているというのに。だからといって休日担当の父が休みの日にがむしゃらに世話をするでもない。

娘の知子は4歳になり言葉も達者になってきたけれど、田んぼに行っても手伝いよりは水路での水遊びに夢中で、自給の英才教育を目論んでいた父の想いは今の所空回り中である。

母は平日の水管理を任されているが、その仕事ぶりを父からなかなか認めてもらえずにいる。父は2枚目に水が入らないのが気に入らないのだ。

田んぼに行くときは常に鎌を携えて、畦際の草を刈っておくようにと言われているのに、つい忘れてしまう。休みの日に田んぼへ行くのも気が進まない。これじゃ水漏れの場所もわからない、などと父から小言を貰うことになるのがわかっているからだ。もちろん父から日頃の働きをねぎらわれることもない。

田んぼの行き帰りに、ふと父が幸せだなあと呟くことがある。お前のおかげでと枕を付ければ、報われたと思えるのに、この人は天才的に気が利かないから、期待しても詮ないこと。そうだねと相槌を打ってよしとするか。

尺角に1本植えた稲が扇型に開いて、気持ちよさそうなんだけど、一家のズボラな世話で、どこまで父のいい加減な予言に近づけるのか天のみぞ知るといったところである。

（子ノ神では井関さんグループの上の田んぼと岡本家族の下の田んぼが、代掻き、苗づくりなど一部作業で緩く協働しながら、基本的にはそれぞれ独立してお米づくりをしています。）

達の高齢化もあり、この風景も維持していくのが難しい状況になってきています。

今、経済第一の資本主義社会のシステムが崩壊していく中、特に日本では、去年の東日本大震災と原発事故を経験し、何が人として一番大事な事なのかを考えさせられ、新しい価値観、生き方を模索して、どう行動していくかが問われているかと思っています。これからの私たちは、作家の宇根豊さんの著作の中にある様な農を通じて維持されてきた地域の景観の価値観や、めだかやカエル達と共に、ゆったりと暮らして行けるような価値観を大切に育て、子供達に残していくのが大人の勤めではないのでしょうか。

偉そうな事を書きましたが、私もすぐに効率を考えてしまいがちで、せっかちな、欲望だらけの、都会に住む人間です。イライラしたら、めだかやカエルやトンボと共に、ゆっくり深呼吸して、田んぼに関わって暮らしていけたらと思います。

こんな恵まれた風景の小田原に住む若者達！スマホをいじっているよりも、農作業するのは心癒されて楽しいですよ！何か心ざわつく事があれば、まず近隣の田んぼの田植えに参加してみても！世界が変わるかもしれません？

7月16日月曜日海の日には三連休の最終日。今まで曇りがちだった天候が一転、雲ひとつない青空のもと大豆苗の定植を行いました。

まずは、スコップで畝間を掘り起こしました。ただでさえ粘土質の土は、ここ数日の雨でぬれて重たく、みんな汗だくの作業になりました。泥で足を取られます。でも、ミミズがたくさん出てきて良い土でした。

次に、完成した畝に苗を植えていきました。本葉が出始めたばかりの苗は、まだ少し頼りなげですが、根っこがしっかり張っていました。30センチ置きに5~6列で植えていきました。なかなか地道な作業ですが、だんだん向こうから植えてきた人との距離が近づいて…。少し雲が多くなってきたお昼過ぎ、定植を終えました。

ここで雨が降ってほしいところでしたが、この日の翌日、梅雨明けが発表されてしまいました。ちょっと元気がなくて、はじっこに植えた苗も無事に育ってくると良いな、と願わずには居られません。無事、お味噌になる日まで、丈夫に育ちますように。

「協力のお願い」

原発事故以来農の会では、転居する人や、活動を離れる人が、多数います。当然のことでもあります。生産者は自分の農業で手一杯です。市民的な自給の参加者は激減した状況です。

このままではどの活動も維持できない状態に立ち至っています。原発事故に負けてはいられない。そう思って頑張ってきましたが、いよいよ危機的状況です。笹村には担えなくなっています。運営を担う人が不足しています。

- 1. 機械管理担当
- 2. お茶の会担当
- 3. 堆肥の実証実験担当
- 4. 小麦の会担当
- 5. 有機の里づくり協議会事務局員 等

2012年7月20日 笹村 出

近頃は風呂上りに、寝椅子を持ってベランダ(物干し場ともいう)へ出て10分ばかり涼む。さすがに戸外は涼しく、月や星を愛で、かえるや虫の声も。ちょうどいいくらいに体も冷えて、風呂上りにエアコンガンガン一んで全然要りませんよ。

ただし蚊取り線香だけはお忘れなく。(せとも)

~~ちよっといぶくまんが~~

通信が置いてあるお店

「IN NATURAL」さん

「あしらがら農の会」を知ったのは5~6年程前、「ポタジェララ」さんのお料理教室に参加した時でした。野菜の味に感激し(たしかキャベツでした…)これだ!! と思いつぐ申し込みました。そして「そらや」と出会い毎週おいしいお野菜いただいています。

私はインナチュラルというお店で、~植物のある暮らし~をテーマにセレクトされた植物、衣料、雑貨を取り扱ってます。新鮮な植物は大田市場から週に2回仕入れてます。植物からはいつもすごいパワーをもらってます。このパワーをあたたく癒されるお店づくりへのパワーにしていけますので、ご来店された事の無い方も是非一度インナチュラルまで足を運んで見て下さい。そして通信見ましたよと声かけて下さい。

これからも宜しくお願い致します。

月に1回園芸教室をやっています。興味のある方は是非参加してみてください!!!

詳しくはホームページまで。 www.in-natural.jp

インナチュラル小田原店 三輪



「ひよこ」農業日記

毎日30℃以上の日が続いています。昼間は暑くて農作業がきつい為、朝の早い涼しい時間から始めます。暑くなったら、家に帰り昼寝をする生活です。ただ、昼寝をするにしても暑すぎて、汗がだらだら寝た気がせず、午後の農作業に行くのも体が重い。体がバテバテの私に対して、いつも元気な雑草達。草刈り機を使って、元気もなく、明日にしようとして先延ばしに、草も生長しすぎて草刈りに時間がかかり、早くやっておけばよかったという後悔。

今年、いつになく大玉トマトが実をつけています。いつもは、カラスに赤くなった頃につつかれ悔しい思いをしますが、草に隠れて見えないからなのかカラスの被害もなくて、今年こそたくさん収穫できるかも。と思いきや、今年のカメムシが大量にトマトに群がっています。実際には、カメムシに吸われた跡がたくさん! 大部分が出荷することができず、につつきカメムシ。捕殺するにも、数が多すぎ諦める。そういえば、いんげんもカメムシにやられダメだったなあ、カメムシが大量発生した年の冬は寒くなるらしいとか、

吉田裕香